



教育開発推進機構 NEWSLETTER

NEWSLETTER

Vol. 7

教育開発ニュース

KOKUGAKUIN University 平成 25 年 (2013) 1 月 31 日

体育館での授業風景
(平成25年1月16日撮影)

目次

- 國大生、中国・南開大学で Semester 留学体験を語る
佐川繭子 (中国南開大学 Semester 留学引率者) 2p
- 前期履修上の注意点 ～楽しい夏休みを迎えるために～
学修支援センター (鈴木崇義・佐川繭子) 4p
- 七転び八起き — 卒業体験記 —
飯田亜沙子 (平成 23 年度卒業生) 7p
高田恵里 (平成 23 年度卒業生) 7p
- SA 特集 図書館なんてコワくない! 9p
- シリーズ「大学教育最前線 — 教員の努力! 学生のまなざし! — (7)」
落合知子 (文学部准教授) 14p
- 教育開発推進機構彙報 (平成24年7月1日～12月31日) 19p
- 新任職員紹介 20p
- 啐啄同時 — 編集後記 — 20p



國學院大學教育開発推進機構

國大生、中国・南開大学で セメスター留学体験を語る

井上加菜さん・島根拓海さん・山崎千世さん（いずれも中国文学科2年生）
聞き手・注釈・編集 佐川繭子（今年度引率者 教育開発推進機構准教授）

本学の留学プログラムには、短期留学、セメスター留学、協定・認定留学がありますが、今回ご紹介するのは中国・南開大学セメスター留学です。毎年9月から12月までの4か月間、中国天津市にある南開大学で行われ、週5日、中国人教師による中国語科目（使用言語は当然中国語）を中心に受講します。生きた中国語を学べるのはもちろんのこと、今まさに発展している中国の様々な面を実見実感することができます。今年度は38名の学生が参加していますが、留学開始約3か月後の11月下旬に、3名の学生に現地での体験や感想を語ってもらいました。

なお、セメスター留学の詳細や他の留学プログラムについては国際交流課にお問い合わせ下さい。



左から井上さん・山崎さん・島根さん

●もっとここにいたい

——残りあと1ヶ月となったけど、今の率直な気持ちを聞かせてくれるかな。

島根さん（以下、島）：おれはもっとここにいたい！

山崎さん（以下、山）：ね！もうちょっといたい。

井上さん（以下、井）：さみしい。

山：みんなと仲良くなってきたし、ようやく会話もスムーズにできるようになってきたし。

島：中国にいた方が自分が成長できる気がする。右も左もわからないような状態で中国に来たけど、少しは成長した。

——日本に帰りたと思ったことはある？

島：初日です。（一同笑）

井：9月は外にも出られない状況が続いたので（注1）、楽しくないし、帰りたかって思っていたんですけど、今は光の速さで過ぎていくんですよ、時間が。

島：そうそう、ほんとに早いよね。

井：最近家のことはあまり考えなくて、逆にあっちから「連絡して」って来ます。

——それだけこっちでの生活が楽しいということかな。

井：ほんとに、新鮮です、毎日。

島：そう。新鮮だよな。

——3ヶ月になるけど、まだ新鮮さを感じる？

井：新鮮です。11月になって、中国人やいろんな留学生と接するようになって、インドネシア人とかタイ人、韓国人とか。昨日も（外国人と）ご飯食べに行ったんですけど、これ、間に合うかな、帰国までにみんなと遊べるかな、って。

山：ようやく仲良くなった外国人いるよね。

井：それに、中国人はこっちのことを覚えてくれる人が多くて、火鍋の人もそうだし（注2）

山：火鍋と仲いいよね。

井：たくさん行きすぎた（笑）。火鍋の下のスーパーのおじさんも「あと1ヶ月だねー」って言ってくれて、すごく寂しくなります。

——日本にいる時よりも充実しているみたいだね。

島・井：充実しています。

山：行かなかった子も来ればよかったのに。来てイヤな事もあるけど、絶対、来て良かったと思う。

井：よかったよね。よかったこと多いよね、本当に。わたし、行きたくなかったんですけど、最初は。

島：おれも。不安しかなかったよ。中国はやばい国なんだろうなあ、って。

●行きたくなかった

——何で行くことにしたの？

井：わたしは先輩のオシです。文学研究プログラム専攻だから、関係ないんですよ（注3）。でも「絶対行った方がいい」って言われて、あまり乗り気ではないまま来たんですけど、今はすごく楽しいです。

島：おれは、結論から言うと、中国語教養プログラムしかやりたいのがなかったから。今ここに来たけど、来て良かったことしかないですね。（一緒に来ている國學院の学生とも）こっち来てから仲良くなった人が多いですよ。皆で集団生活している感覚だから。

山：そういうのが楽しいよね。皆、中国語もっと上手くなるうっていう同じ目標があって、それに向かってやっているから尚更。こっちだと、日本人が少ないので、団結力が増す気がします。仲良くなりやすい。日本で

は男子とは喋ったことがなかったし。

——皆、(中国語が)進歩したって先生も褒めてたね。

島：おれ、ホント勉強したことなかったから、中国語なんか。落とした科目もあるし。こっちに来てからガラッと変わりました。

山：変わったよね。突然部屋を尋ねたらスライドショーを見ていて(注4)、「あ、勉強してる」って。

島：日本にいと中国語の必要性ないけど、ここにいと必要に迫られるから。こっち来た時は本当に何もわからなかったの。

井：同じく。気持ちもレベルも下から始まりました。本当に、(留学直前の)夏休みも何もしてなくて、ゼロから始まったようなものです。

島：今、事前語学研修と同じことやったら、簡単に出来るだろうなあ。

山：昨日、ふと日本から持って来た教科書を見たら、「あれ、ピンインがふってある」「隙間が多い」って(笑)(注5)。

●人が優しい

井：留学生ってみな温かいですね。

島：インドネシア人だけじゃなくて(注6)?

井：じゃなくて。一回、(他国の留学生の企画で)天津の長城に行ったんですよ。名前は覚えてないんですけど、(参加していた)ヨーロッパの人やアメリカ人と挨拶するようになりました。

島：おれもインドネシア人とは全員と挨拶するようになったな。顔は覚えただけど、名前は難しい。

山：中国語化されてるから尚更ね。

——休日の過ごし方は?

島：買い物だよ。来た当初は、買い物に行くのも不安だったよね。「街に出るの怖いな」と思ってたけど、今は楽しいね。

山：スムーズに買い物できるようになったし。日本にいる時よりも出かけるよね。

井：部屋の中に入れていないようにしてます。

山：せっかくこっちにいるんだし。

——宿題は? 勉強は大変じゃないの?

島：来た時は宿題毎日あるのヤダなと思ったんですけど…

山：多いと思ったよね。

島：でも今は全然思わないね。

——こちらに来てから、日本の家族や友達に伝えたいことってどんなことですか。

山：こっちに来てみると、ドラマでは日本人の悪役が多くてびっくりしたけど、(現地の)人間は優しい。まあ、直で会えば誰でも優しいんですけど。思っていたより深刻な問題もあれば、思っていたより何でもないこともあって、実際に来てみると(日本との)関係というのはわからないと思いました。わたしはもともとけっこう(中国が)好きだったから、知らなきゃよかった、ということはある。でも、知ってよかったです。ちゃんと本当のこと知りたいし。ますます好きになったのは確かかな。あと、

逆に日本のいい所にも気づいた。

井：こっちの生活はすごく楽しいです。人がすごく優しいです。日本はギスギスしている感じがします。ここでは、留学生という身分もあると思うんですけど、みな優しく話してくれますし。わたしは本当に行きたくなかったので、中国(笑)。ニュースでも嫌なことしか聞かないので、その状態から来たので、逆にいい所しか見えません。来てよかった。

島：んー、中国に対するイメージはよくなりましたね。実際中国で生活してみると、中国ってこういう国なんだな、ってわかりました。国民性も、文化もわかったし。買い物に行くと、店員がケータイいじってるんですよ、仕事なのに。客が来たら接客する店員もいるし、客が来てもケータイいじったり喋っていたりマージャンしたりして、客から声かけないと接客しない店員もいるし。仕事してる感覚がないんじゃないかな。国民全員が、って訳じゃないんですけどね。本当に日本とは全然違いますね。「いらっやませ」がなくて、「ありがとうございました」もなくて、最初は本当にびっくりしたんですよ。逆に客が「謝謝」って言うよね。それが今でも慣れない。

山：でも、それが当たり前だと思ってた、日本にいる時は。

——まだ終わってはいないけど、また中国に来たいですか。

山：わたしは長期留学を考えています。

島：来たいですね。

井：友達に会いに来たいです。こっちで知り合いになった友達に。

【注 釈】

- (1) 日本政府による尖閣諸島国有化をめぐる、中国内の反日感情が高まったため、安全を考慮して外出制限をしていた。幸い、天津市内では日本で報道されたような激しい抗議運動は起こらなかった。
- (2) 学内には学食や食堂が多く、「火鍋」というのはその中の一店の愛称。しかし火鍋以外の料理を注文する学生がほとんどである。
- (3) セメスター留学は全学を対象に実施されているが、中国文学科中国語教養プログラムの必修でもある。
- (4) 一部授業ではパワーポイントが使われる。授業中は極力書き写さないように指示されるが、データをもらえるので復習できる。
- (5) 日本の大学1、2年次で使用される中国語教科書には漢字のフリガナであるピンインがふってある。現地で使用している教科書にはピンインはなく、文章量も日本での教科書に比べると倍以上である。
- (6) インドネシアから留学に来ている集団。同じ宿舎に住んでいるが、國大生曰く「めっちゃフレンドリー」とのこと。

※文中、くだけた表現など散見されますが、和気あいあいと話す学生の生の声をなるべくそのままに収録してみました。

前期履修登録上の注意点

～楽しい夏休みを迎えるために～

学修支援センター（鈴木崇義・佐川繭子）

4月は新たな季節。大学は授業の始まりの時。学びの「はじめの一步」を踏み出す時です。今回は、学修支援センター相談室で受けた相談内容をもとに、大学での学び、特に履修登録(授業を受講するために必要な登録)について考えて欲しいこと、気をつけて欲しいことをまとめました。主な読者は新入生を想定していますが、2年生以上の皆さんも、自分自身の学びの過程を確認する上で参考にし、履修登録をする時に座右に置いて読んでいただければ嬉しいです。

大学の授業は自分で選ぶ

皆さんは、今まで**時間割**を組んだことがありますか？

最近単位制を導入している高校も増えてきましたから、すでに経験している人もいるかもしれませんね。大学では、**自分で時間割を組み、自分だけの時間割に沿って授業を受けます**。これは、おそらくほとんどの新入生の皆さんが初めて経験することでしょう。もちろん、何でもかんでも授業を受けさえすれば良い、というものではありません。皆さんがそれぞれ所属している学部・学科、あるいは選択したコースに沿って授業を受け、それぞれの学問領域を体系的に学んでいかなければなりません。

大学で受ける授業は高等教育であり、それは各学問領域の専門分野を学んでいくことになるのです。あなたの所属は法学部ですか？ それとも経済学部？ 史学科の学生ですか？ それとも初等教育学科の学生？ 当然のことですが、皆さんは等しく國學院大学の学生です。しかし、**所属する学部・学科はそれぞれ異なります**。**学部・学科が異なる**ということは、所属しているそれぞれの学部・学科によって学修する学問領域の専門性が異なるということです。このことは、授業を受ける時、あるいは履修登録をする時に意識しておいてください。

それでは次に、大学での学びがどのような段階を経て行われていくのかを見ていきましょう。

大学4年間の学びを見渡してみよう

大学で開講されている授業はたくさんありますが、

皆さんが4年間の学びを経て卒業するためには、最低でも**124単位**分の授業を受けなければなりません。そして、授業はそれぞれが必ず科目群(授業の種類ごとにまとめたグループ)に分かれています。まず、大きな分け方としては、**専門教育科目**と**教養総合科目**の2つがあります(この他、資格課程科目もありますが、今回は割愛して説明します)。

専門教育科目は、学生それぞれが所属する学部・学科の学問領域を学ぶ科目です。例えば、あなたが日本文学科の学生であるなら、日本文学科の専門教育科目があなたにとっての専門教育科目になるわけです。そして、卒業までに必要な124単位の内**64単位**(人間開発学部は74単位)は、最低限この専門教育科目から単位を取得しなくてはなりません。ですから、**専門教育科目は学生がそれぞれ所属する学部・学科によって異なる**のです。

次に、教養総合科目についてですが、これは、大学生として学ぶべき知識、思考、体験を学ぶ科目です。つまり専門教育科目と違い、**教養総合科目は学部・学科とは関係なく、國學院大学に学ぶ全ての学生を対象としています**。例えば、「英語科目」や「神道科目」、「テーマ別講義」等がそれに該当します。この教養総合科目からは124単位の内、最低限**36単位**(人間開発学部は26単位)を単位取得しなくてはなりません。つまり、専門教育科目はそれぞれの専門領域を段階的に学んで専門性を高めることを目的に設定されており、教養総合科目は幅広い知識や思考のための手段を学ぶことを目的に設定されているのです。

では、この二つの科目群の4年間の学びの概略を図1に示してみましよう。

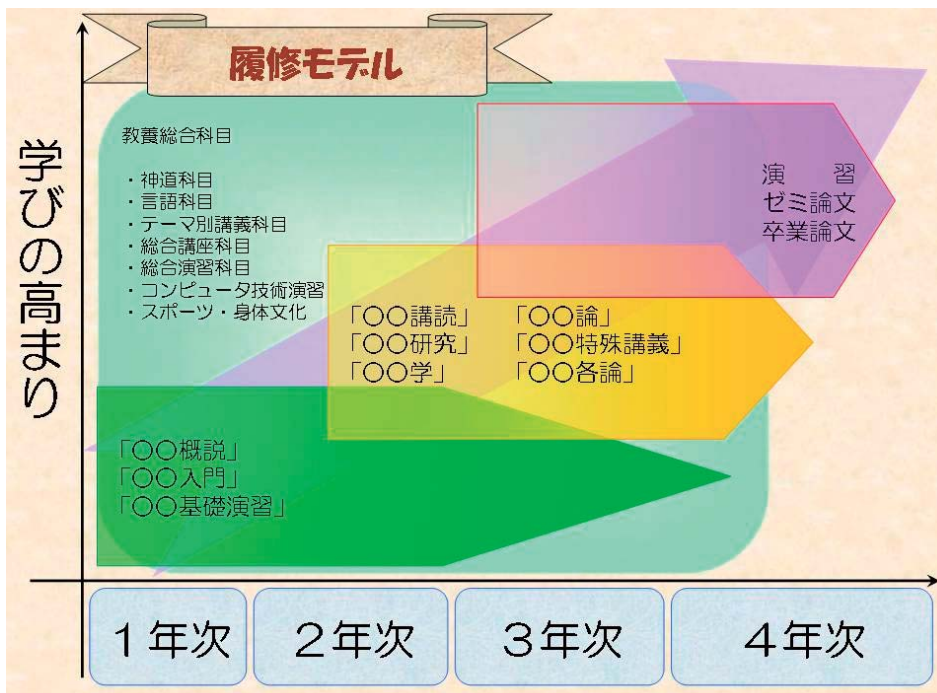


図1: 専門教育科目は段階的に学びを高め、教養総合科目は学びの基盤となっている

このように、大学の授業の特徴には大きく2つの枠組みがあり、それぞれが大学教育に欠かせない重要なものとなっています。まずは、ここを抑えておきましょう。そして、それぞれどんな科目が用意されていて、何年生になったら履修すべきなのかは、全て『履修要綱』に載っています。これについては、後ほど説明します。

なお、先ほどの64単位(専門教育科目)と36単位(教養総合科目)を合わせても100単位にしかならず、卒業までに必要な124単位に届きませんね。残りの**24単位**はどうしたらよいのでしょうか？

実は、この24単位については、卒業要件として定められる授業ならどんな授業でも構いません。専門教育科目からでも、教養総合科目からでも、さらには**全学オープン科目**(他学部・他学科の専門教育科目であっても履修登録可能な授業)からでも自由に選択できます。

ですから、残りの24単位は専門教育科目と教養総合科目の単位数がほぼ満たされた段階で、どのように履修を組みこんでいくかを考えても良いでしょう。**基本となるのは、自分自身の「専門」科目、「教養」科目の2つ**です。

履修登録期間は1年に2回
(通年科目と半期科目)

先ほども述べましたが、大学の時間割は自分で作成するものです。しかし、自分なりに時間割を作ってみても、受講したい科目を大学へ届け出なくては意味がありません。この、届け出る手続きを**履修登録**といいます。

この履修登録をしないと、その授業の受講生として認められず、たとえ出席していても単位を認定するための評価を受ける(試験を受けたりレポートを提出したりする)ことができません。評価を受けないと単位を取得できず、単位を取得できないと、卒業することができません。ですから、履修登録とは、単に授業を登録するだけのものではなく、4年間の学修計画のどこに位置づけられるのかを絶えず確認するための作業でもあるのです。

この履修登録を行う時期はすでに決められており、これを**履修登録期間**といいます。履修登録期間は、例年、**前期は4月上旬、後期は9月下旬**に設けられています。現在、國學院大學では半期科目(前期あるいは後期の半期間で内容が完結する授業)と通年科目(前期、後期を通した1年間で内容が完結する授業)の両方が用意されており、4月の履修登録の時には前期科目と通年科目の履修登録を併せて行います。各授業が前期科目なのか後期科目なのか、あるいは通年科目なのかは『履修要綱』や『**時間割表**』に記載されていますので、履修登録の時にはちゃんと確認してください。

それからもう一つ、大事な注意点を付け加えておきます。1年間に履修登録できる単位数は学年によって決められています。**42単位か48単位**です。前期(4月)の履修登録では、1年生以外はこの単位数全てを使って授業を登録することができてしまうのですが、**2年生以上の皆さん、それは絶対にやめてください。必ず後期に履修登録するための登録可能単位数を残しておいてください。**目安としては前期と後期で半分くらい(それぞれ24単位ほど。通年科目は前期と後期で単位数を分割して計算してください)です。

もし、前期にばかり授業をたくさん登録してしまうと、後期は履修できる授業が少なくなってしまうというアンバランスな状態になってしまいます。そうすると、**後期に履修しなければならない科目を履修できなくなってしまう**たり、**前期の負担が大きくなり過ぎて試験やレポートの準備が間に合わず単位を落としてしまうことになりかねません。**くれぐれも気をつけてください。



履修登録には何を準備するのか？

— 時間割を作るために必要なもの —

続けて、履修登録に必要なものを紹介します。まずは、先ほどの『履修要綱』。これは入学時に配布されたものを卒業まで使います。どの『履修要綱』にも、「〇〇年度入学」と書いてありますので(図2参照)、必ず自分の入学した年度のものを用意してください。



(図2：『履修要綱』は年度ごとに色分けされている)

次に、『時間割表』を用意しましょう。これは、年度ごとに発行され、その年度に開講される授業が全て一覧になっています。さらに、その年度に限った履修に関する具体的な説明や約束事、履修登録期間の予定についても書かれているので、履修登録には必須の冊子です。

そして、新生は入学時に配布された、いくつかの科目が既に組み込まれた時間割の表(A4×1枚)、2年生以上の学生は最新の成績通知表が必要です(1年生も後期の履修登録の時には必要)。特に、成績通知表は今まで自分がどんな授業を受けてきたかを知り、今後どのような授業を受けなければいけないかを考える際に確認しなければならぬものです。これを確認しないと、履修登録の時にどの科目を登録すべきかがわからなくなってしまいます。

最後に、もっとも重要な情報を提供してくれる、**シラバス**(講義概要)について説明します。シラバスとは、授業の担当教員がその授業の内容、講義の進め方、講義計画、成績評価の方法等を紹介したものです。よって、授業を選択する時には必ず確認する必要があります。なお、シラバスは大学HP上に公開されていますので、いつでもどこでも閲覧することができます。

以上、履修登録に必要な、主なものはこの4点で

す。これを確認しながら、K-SMAPYの時間割作成画面で受講したい授業を登録していきましょう。

授業の登録について

— 事前登録科目に気をつけよう! —

履修登録の最大の難関といえるかもしれません。現在、本学では諸般の事情により履修登録できる授業に制限をかけています。その一つが**事前登録科目**というものです。これは、授業の受講生数を調整するため、いわば抽選によって受講生を確定する科目のことを指します。

これは、一つは演習科目のような少人数で議論して進めていく科目。もう一つは受講希望者が大勢いることが予想されるため、教室の定員に受講者数を制限せざるを得ない科目です。

平成24年度においては、2限から5限までのほとんどのテーマ別講義(教養総合科目の主たる科目群)が事前登録科目の指定を受けていました。ですから、皆さんに気をつけて欲しいことは、必ず事前登録期間に一度は時間割を組んでみることに。次に、選択した科目に事前登録科目があったら、**その抽選に外れることも想定して**、科目に落選した場合の第2案、第3案も考えておくことです。なお、さらに注意しておいて欲しいのは、**事前登録科目に当選したら、その科目の登録を外すことはできないということ**です。半ば運頼みのところもあるので難しいとは思いますが、シラバスをよく読み、自分の興味関心のある授業かどうかを考え、その科目が専門教育科目なのか教養総合科目なのか、全学オープン科目なのかをよく確認して選択してください。

また、**履修登録状況によっては二次募集、三次募集をかける授業もあります**。ですから、なるべく早く時間割を作成し、不測の事態に備えてください。

専門教育科目、教養総合科目の見分け方。

最後に、専門教育科目と総合教育科目の見分け方について説明します。無論のこと、これらは『履修要綱』を見れば、それぞれどんな科目がどちらに該当するかはわかるのですが、もう一つ、手軽に知る方法を教えます。それには、『時間割表』を使います。

『時間割表』の、どの曜日どの時限でもいいですから開いてみてください。そうすると、大きく1ページが半分に分かれて授業が並んでいますね。大まかに左

学年	学期	科目名	履修科目	履修年次	履修単位数	履修科目	履修年次	履修単位数
1	前期	英語 I (英)	英語 I (英)	1	5	英語 I (英)	1	5
		英語 II (英)	英語 II (英)	1	5	英語 II (英)	1	5
		英語 III (英)	英語 III (英)	1	5	英語 III (英)	1	5
		英語 IV (英)	英語 IV (英)	1	5	英語 IV (英)	1	5
		英語 V (英)	英語 V (英)	1	5	英語 V (英)	1	5
	後期	英語 VI (英)	英語 VI (英)	1	5	英語 VI (英)	1	5
		英語 VII (英)	英語 VII (英)	1	5	英語 VII (英)	1	5
		英語 VIII (英)	英語 VIII (英)	1	5	英語 VIII (英)	1	5
		英語 IX (英)	英語 IX (英)	1	5	英語 IX (英)	1	5
		英語 X (英)	英語 X (英)	1	5	英語 X (英)	1	5
		英語 XI (英)	英語 XI (英)	1	5	英語 XI (英)	1	5
		英語 XII (英)	英語 XII (英)	1	5	英語 XII (英)	1	5
		英語 XIII (英)	英語 XIII (英)	1	5	英語 XIII (英)	1	5
		英語 XIV (英)	英語 XIV (英)	1	5	英語 XIV (英)	1	5
		英語 XV (英)	英語 XV (英)	1	5	英語 XV (英)	1	5
2	前期	英語 XVI (英)	英語 XVI (英)	2	5	英語 XVI (英)	2	5
		英語 XVII (英)	英語 XVII (英)	2	5	英語 XVII (英)	2	5
		英語 XVIII (英)	英語 XVIII (英)	2	5	英語 XVIII (英)	2	5
		英語 XIX (英)	英語 XIX (英)	2	5	英語 XIX (英)	2	5
		英語 XX (英)	英語 XX (英)	2	5	英語 XX (英)	2	5
	後期	英語 XXI (英)	英語 XXI (英)	2	5	英語 XXI (英)	2	5
		英語 XXII (英)	英語 XXII (英)	2	5	英語 XXII (英)	2	5
		英語 XXIII (英)	英語 XXIII (英)	2	5	英語 XXIII (英)	2	5
		英語 XXIV (英)	英語 XXIV (英)	2	5	英語 XXIV (英)	2	5
		英語 XXV (英)	英語 XXV (英)	2	5	英語 XXV (英)	2	5
		英語 XXVI (英)	英語 XXVI (英)	2	5	英語 XXVI (英)	2	5
		英語 XXVII (英)	英語 XXVII (英)	2	5	英語 XXVII (英)	2	5
		英語 XXVIII (英)	英語 XXVIII (英)	2	5	英語 XXVIII (英)	2	5
		英語 XXIX (英)	英語 XXIX (英)	2	5	英語 XXIX (英)	2	5
		英語 XXX (英)	英語 XXX (英)	2	5	英語 XXX (英)	2	5

(図 3：右はページのちょうど中央で分かれているが、左はページの左下に学部専門科目が割り込んでいる)

側に並んでいるのが教養総合科目と資格課程科目で、右側に並んでいるのが専門教育科目です。もっとも、文学部の専門教育科目が少し左半分の下の方に食い込んでいるページもありますが、大体このような見方ができます。チェックしてみてください。(図3)

この一覧は細かな科目群も容易にチェックすることができますので、自分が選択した科目がどの科目群に該当するのかを確認するのに非常に便利です。また、先ほどの事前登録科目を選択した時、惜しくも抽選漏れした時に、第2案を考える参考になります。ぜひ、活用してみてください。

以上、簡単ですが前期(通年も含む)の履修登録上の注意点を述べてみました。もちろん、履修登録しただけでは意味はありません。履修登録を終え、授業が始まったら全ての授業に出席して、その内容を身に付けるべく学修に励んでください。それをもとに皆さんは大学での学びを深めていくはずで、何かでつまづき困ったと思うことがあったら、学修支援センター相談室を訪ねてください。

学年	学期	科目名	履修科目	履修年次	履修単位数	履修科目	履修年次	履修単位数
1	前期	英語 I (英)	英語 I (英)	1	5	英語 I (英)	1	5
		英語 II (英)	英語 II (英)	1	5	英語 II (英)	1	5
		英語 III (英)	英語 III (英)	1	5	英語 III (英)	1	5
		英語 IV (英)	英語 IV (英)	1	5	英語 IV (英)	1	5
		英語 V (英)	英語 V (英)	1	5	英語 V (英)	1	5
	後期	英語 VI (英)	英語 VI (英)	1	5	英語 VI (英)	1	5
		英語 VII (英)	英語 VII (英)	1	5	英語 VII (英)	1	5
		英語 VIII (英)	英語 VIII (英)	1	5	英語 VIII (英)	1	5
		英語 IX (英)	英語 IX (英)	1	5	英語 IX (英)	1	5
		英語 X (英)	英語 X (英)	1	5	英語 X (英)	1	5
		英語 XI (英)	英語 XI (英)	1	5	英語 XI (英)	1	5
		英語 XII (英)	英語 XII (英)	1	5	英語 XII (英)	1	5
		英語 XIII (英)	英語 XIII (英)	1	5	英語 XIII (英)	1	5
		英語 XIV (英)	英語 XIV (英)	1	5	英語 XIV (英)	1	5
		英語 XV (英)	英語 XV (英)	1	5	英語 XV (英)	1	5
2	前期	英語 XVI (英)	英語 XVI (英)	2	5	英語 XVI (英)	2	5
		英語 XVII (英)	英語 XVII (英)	2	5	英語 XVII (英)	2	5
		英語 XVIII (英)	英語 XVIII (英)	2	5	英語 XVIII (英)	2	5
		英語 XIX (英)	英語 XIX (英)	2	5	英語 XIX (英)	2	5
		英語 XX (英)	英語 XX (英)	2	5	英語 XX (英)	2	5
	後期	英語 XXI (英)	英語 XXI (英)	2	5	英語 XXI (英)	2	5
		英語 XXII (英)	英語 XXII (英)	2	5	英語 XXII (英)	2	5
		英語 XXIII (英)	英語 XXIII (英)	2	5	英語 XXIII (英)	2	5
		英語 XXIV (英)	英語 XXIV (英)	2	5	英語 XXIV (英)	2	5
		英語 XXV (英)	英語 XXV (英)	2	5	英語 XXV (英)	2	5
		英語 XXVI (英)	英語 XXVI (英)	2	5	英語 XXVI (英)	2	5
		英語 XXVII (英)	英語 XXVII (英)	2	5	英語 XXVII (英)	2	5
		英語 XXVIII (英)	英語 XXVIII (英)	2	5	英語 XXVIII (英)	2	5
		英語 XXIX (英)	英語 XXIX (英)	2	5	英語 XXIX (英)	2	5
		英語 XXX (英)	英語 XXX (英)	2	5	英語 XXX (英)	2	5

(図 3：右はページのちょうど中央で分かれているが、左はページの左下に学部専門科目が割り込んでいる)

七転び八起き 一卒業体験記

■飯田亜沙子さん(平成23年度卒業)

初めまして、昨年度文学部を卒業した者です。今回この『教育開発ニュース』に寄稿することができ、大変恐縮しております。今回は学修支援センター(以下センター)へ通っているうちに気付かされたことや、今の私が過去を振り返って思ったことを私なりに少し書きたいと思います。このような物を書くのは慣れていないのですが、少しでも皆様の参考になれば幸いです。

私がセンターへ通い始めたのは3年生の終わり頃でした。きっかけは私の母が勧めたからでした。大学に入ってから寮生活をするようになった私は、親の目が無いことをいいことに自堕落な生活を送るようになりました。それに加えて一度授業を欠席してしまった



ことがきっかけで、次第に学校にも行かなくなりました。そんな私を見かねて母がセンターへ通うことを勧めてくれたのです。

人見知りの性格ゆえに最初の頃はセンターの中へ入るのも戸惑ったりしていましたが、先生方は親身になって此方の悩みや相談に乗ってくださり、とても良くしてくださったので、次第に慣れて通うのも苦ではなくなりました。今ではセンターへ通うことを勧めてくれた母、そしてセンターの先生方には感謝もしきれません。

学生生活の中で一番重要だったと思うのは、やはり生活習慣です。私は不登校の間、朝に寝て夕方起きるような生活を送ってしまいました。それが行かなくなってしまった原因の一つでした。それを実家から通うようにし、乱れていた生活習慣を正しくしたら自身のモチベーションも上がり、不登校もなくなりました。もしそのまま寮で生活をしていたら、こうして卒業はできていなかったかもしれません。

その生活習慣に合わせた履修を組むことも大切でした。今までは割と適当に履修を組んでいたのですが、センターで相談したところ、自身に合った履修の組み方などをアドバイスしてくれました。そのアドバイス通り履修を組んでみたところ、時間と心に余裕ができ、本来はする余裕などなかったはずの就活をすることができました。今は何とか就職して頑張っています。

途中で一度挫けてしまいましたが、諦めずに最後まで通ってよかったと思います。もし私と同じように挫けてしまった学生さんがいらっしゃるのであれば、試しにセンターを訪れてみてはいかがでしょうか。自分一人でどうにかしようとせず、周りの誰かに頼ってみるのも一つの手だと思います。学生のみなさん、是非とも思い出に残る学生生活を謳歌してください。

■高田恵里さん(平成23年度卒業)

私は入学当時から、年毎に体調の悪さが酷くなっていることを自覚していました。そして3年の9月にとうとう動けなくなり、2つの難病にかかっていることが判明しました。後でもう1つ難病にかかっていることを知ったのでトリプルですね(笑)。休学しても良かったのでは?と思われるかもしれませんが、病気が進行する可能性が高く、いつ通学出来なくなるか分からないため、逆に休学はする気になりませんでした。病気を知った時は目の前が真っ暗になりましたが、神職課程も授業を

出席して、実習もあと一つ残すのみになるまで頑張ってきたのでどうしても辞めたくない、卒業したいという思いが強く、病気にも負けたくありませんでした。そこでお世話になっていた学生生活課の担当して下さった方に紹介していただいたのが、学修支援センターでした。相談に乗って下さる先生や職員の方々、授業の時に補助に入ってくれる学生さんにお世話になりました。

私が一番困っていたのは、線維筋痛症という病気の症状の一つである、全身の痛みでした。字を書くとき手の筋肉が痛くなり、ミズが這ったような読みづらい字になり、また板書のスピードについていけませんでした。そこで録音機を持ち込みの許可を頂くとともに、ノートテイクさんをつけて頂きました。また、私は繊維筋痛症の症状により臀部の痛みがあり、授業中座布団がなければ座れなかったため、授業の前に持って行って頂いたり、多い荷物を半分持って頂いたりなど、数えきれないくらいお世話になりました。感謝しても感謝しきれないぐらいです。

2012年の春、晴れてやっと卒業できました。卒業は無理かもしれないと思っていた時を思うと、人の倍嬉しかったです。でも一方で少しさみしいなとも思っています。それは卒業したことでもう大学で勉強ができないことと、お世話になった方々になかなか会えなくなったことです。

卒業してまず思ったのは、勉強ができるということはいかに恵まれているかということと、自分の頑張りだけでなく、色々な人のお陰で勉強が出来、学生生活を送れているということです。私は学修支援センターがなかったら卒業も出来なかっただろうし、卒業出来なかったことで卑屈になっていたと思います。

障害や病気を持っていて学修に不安を持っている在校生の皆さん、大丈夫です! 難病でも私は卒業できました。人それぞれ困っていることは違うと思いますが、学修支援センターの方々は相談に乗ってくれますし、困っていることを言えばどんな支援が必要かを一緒に考えて下さいます。卒業したいけど出来ないかも知れない、そんな状況になったら、まずは学修支援センターの扉を開けて欲しいです。

関係者の皆様、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。皆様への御恩は一生忘れません。

SA特集 図書館なんてコワくない!

レポートを書くための資料を探したい、先生から勧められた本を読みたい、卒業論文のテーマが決まったので下調べをしたい等々、学生の皆さんは日々の学修の中で、しばしば「調査」「検索」の必要を感じることでしょう。そんな時、強い味方になってくれるのが図書館です。今回はその利用方法について、SA(スチューデント・アシスタント)の皆さんに、実際に利用しつつ説明してもらいました。

[担当者紹介]

中白 里美 (文学部日本文学科・3年)

吉岡志武貴 (文学部史学科・3年)

大和友太郎 (神道文学部神道文化学科・4年)

レファレンスコーナーにひっそり座っている「宣長さん」です。ときどき出てきて、利用方法について補足をしてくれます。気になる人は会いに行ってみよう!



資料を探そう

中白さんは、太宰治とキリスト教の関わりをテーマとして卒業論文をまとめることにしました。そこで、まずはその分野の参考書を読みたいと思い立ったので、図書館にあるかどうか探してみることにしました。

図書館の資料は、図書館ホームページから入れる、「**K-aiser (国学院蔵書検索システム)**」で簡単に検索することができます。



まず、ゲートに**学生証**をかざして図書館に入ると、すぐ目の前にPC端末があります。これを利用してK-aiserに入ります。キーワード、タイトル、著者名等で蔵書の検索をすることができます。そこで、キーワードに「太宰」「聖書」を入れて検索してみると、タイトルや内容にそれらを含む図書の一覧が表示されます。



ピックアップされた複数の候補の中から、『太宰治と「聖書知識』』という図書を利用してみましょう。手順としては、まず『太宰治と「聖書知識』』を選択します。すると、**請求記号**が「910.28//D49//114-II」と表示されますので、これをメモして配置場所である「第2閲覧室」へ行きます。

ちなみにK-aiserは**学外のインターネットと携帯電話からも利用できる**ので、事前に目星をつけておくこともできますよ!

古い雑誌など、まだ K-aiser のデータベースに登録されていないため、検索結果に出ない資料もあります。カードで調べれば見つかる場合もありますので、目当ての資料が見つからなくても、諦めずに職員さんに訊ねてみるのも一策です。



閲覧室・開架書庫を使ってみよう

配置場所を確認した中白さん。目当ての本が第2閲覧室にあることが判ったので、さっそく向かいます。



先ほどのメモを手掛かりに、『太宰治と「聖書知識」』を探します。まず、**本棚の側面に「910」「813」など番号が書かれている**ので、それを参考に目的の本が置かれている本棚を見つけます。『太宰治と「聖書知識」』の請求記号は「910.28」から始まっているので、「910.28」に近い数字が書かれている本棚を探します。

目的の書棚の場所がわからない場合は、K-aiser 検索結果の「**配置場所**」のリンクをクリックしてみましょう。館内マップと書棚の場所が表示されます。



本棚が見つかったら、並べられている本の**背表紙に貼られたラベル**を参考に、目的の本を探してください。『太宰治と「聖書知識」』は「910.28//D49//114-II」なので、「910.28」が見つかったら「D49」、その次に「114-II」といった具合に場所を絞っていきます。



見つかりました！



本を借りる場合は、カウンターに持って行き、学生証を提示して貸し出し手続きをします(他にも、カウンターに設置してある自動貸し出し機を使えば、学生証を通し、本を上に乗せるだけで手続きができます)。もちろん、貸出冊数・貸出期間はきちんと守りましょうね。

今回は、本の一部だけを複写したいので、貸し出しはせずに、複写(コピー)の手続きに進みます。

ちなみに、辞書・事典・文献目録などを一括して「**参考図書**」と言います。配置場所は分野によって異なるのでK-aiserで確認しましょう。また「**禁帯出**」なので貸し出しはできません。

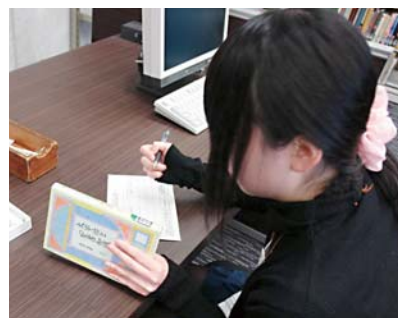


そうそう、開架書庫・地下書庫の書架は稼働式です。開架書庫は、手動でハンドルを回して通路を広げてから中に入りますが、**安全のため、隣の書架に人がいないか十分確認**しましょう。友達を本棚でサンドイッチにしないように！



資料を複写してみよう

続けて、複写の手続きについて説明します。資料の複写を申し込むには、まず「**文献複写申込書**」に、名前・複写する資料名・複写箇所などの必要



事項を記入します。これは図書館内の様々な場所に設置されているので、どこでも入手できます。

次に、複写したい部分の始めと終わりにしおりを挟み、職員さんが確認しやすいようにしましょう。

最後に、記入した申込書と、複写する資料をカウンターに提出して確認をとってもらいます。終わったら**コピーコーナー**に行き、自分で複写して下さい。



「著作権法」により、雑誌の複写はバックナンバーのみ可能です（最新号は閲覧のみとなります。複写したい場合は、次の号が出るまで待ってください）。また、書籍を一度に全ページ複写することもできません。必要な部分のみの複写に留めてください。



閲覧・複写した資料は、そのまま本棚に戻すのではなく、カウンター脇や部屋の隅に置いてある、返却用の棚（ブックトラック）に置いて下さい。あとで職員さんが適切な場所に並べ直します。



◇こんな使い方もできます

●資料によっては、たまプラーザキャンパスには所蔵されていても、渋谷キャンパスに所蔵されていない場合や、その逆の場合もありますが、カウンターで簡単な申込手続きをすれば、取り寄せてもらうことができます。

●本学にない図書でも、協定を結んでいる他大学の図書館に行けば閲覧・複写させてもらえることがあります。詳しくは大学ウェブサイトの図書館ページから「山手線沿線コンソーシアム」「横浜市内コンソーシアム」のコーナーを参照して下さい。

地下書庫を使ってみよう

演習で発表することになった吉岡君。レジュメを作成する上で、どうしても目を通しておきたい論文があります。K-aiserで探したところ、配置場所一覧の中に「地下書庫」という表示があったので、地下書庫に入って複写することにしました。

地下書庫の資料は、「禁帯出」です。貸し出し、及び館外への持出はできません。必要な資料は各自コピー機で複写してください。



まず、図書館の本の**返却カウンター**に向かい、地下書庫を利用する旨を係の方に伝え、学生証を渡します。



すると、赤い紐の付いた**ネームプレート**に学生証を入れて渡されるので、これを首から下げます。



地下書庫には、筆記用具等の**最低限のものしか持ち込めません**。カバン類は入り口横にあるコインロッカーに預けておきましょう（コインロッカーなので100円硬貨を予め用意しておきましょう！再びロッカーを開ければ100円硬貨は返ってきますの

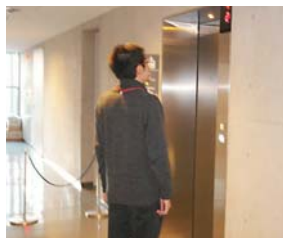


でご安心を!)

目の前の廊下を奥に進むと、右手にエレベーターがあるので、下に向かうボタンを押しましょう。

目指す地下書庫は**地下**

2階です(図書館エリアから離れてしまいますので、決して上に向かわないように!)



本を探す手順は開架書庫と同じですが、地下書庫はスイッチ一つで棚を動かすことができるので、開架書庫のように疲れる心配がありません(ここ重要!)



資料が見つかり、目的の論文も探し当てることができたので、さっそく資料を複写することにしました。「文献複写申込書」に必要事項を記入し、複写を行います。

地下書庫入口から少し入った階段の下にコピー機があり、そこで複写できます。混んでいる場合は2階のコピーコーナーで複写することもできます。



複写が済んだ本は、ここでもブックトラックに置きます(これは、本学図書館の共通のマナーです。覚えておいてくださいね)。複写した資料を持って、エレベーターで2階に戻りましょう。着いたら、学生証を抜いてネームプレートを返却し、自分の荷物をロッカーから取り出します(このとき100円硬貨を回収するのを忘れずに!)

以上が地下書庫の使い方です。閲覧室や開架書庫だけではなく、ここにも色々な資料がありますので、是非利用してみてください。

自動書庫を使ってみよう

K-aiserで検索すると、利用したい資料の配置場所が[自動書庫]となっていることがあります。配置場所をクリックしてみると、2階や3階の本棚とは違う場所ですし、「入れない」と注意書きがしてあります。どうやって閲覧すれば良いのでしょうか。実際にやってみましょう。



自動書庫はロボット仕掛けの書庫です。本の出し入れは機械によって行われます。フロアに配架しきれない古い版の本や、借り手が少ない本が保管されている場所で、人が入ることができません。ですから、**この本を読むにはカウンターで請求をしなければなりません**。ここで何となく面倒になって本を借りない学生も多いのですが、手続きは意外と簡単です。

まず、図書を検索します。この時、横に小さなプリンターが接続されている検索用PCを利用して下さい。

図書の配置場所が[自動書庫]となっていたら、「請求票印刷」というボタンをクリックしましょう。すると、レシートのようなものが画面に表示されます。これが「**請求票**」です。プリンターのボタンをクリックすると、検索PCの横の小さい印刷機から「請求票」が出てきます。



「請求票」は2枚印刷されるので、そのうち1枚をカウンターに持っていき「自動書庫の請求をお願いします」と職員さんに声をかけ、「請求票」のうち1枚を手渡し、もう

1枚は控えとして自分で持って待ちましょう。



機械を操作して本が準備されるまで5分～10分程度かかります。時間が経ったら、再度「請求票」の控えを持ってカウンターへ行き、本を受け取ればOKです（ラストオーダーは閉館30分前まで）。



レファレンスを受けてみよう

資料の探し方や、図書館の利用法でわからないことがあれば、遠慮せず職員さんに話しかけてみましょう。「何を聞きたいのか」をはっきりさせて、最低限のマナーさえ覚えていれば、心強い味方になってくれます。



「自分の探したい本が見つからない」、「検索ワードが思いつかない」など、本を探す時に何か悩みがある場合は、職員さんに相談することができます。これが**レファレンスサービス**です。貸出しカウンターの横にありますので、図書館の利用で困った時には相談してみましょう。



質問の手順は、用紙に自分の名前や所属、質問内容などを書き込み、受付をするという簡単なものです。ここで大切なことは、**質問内容を詳しく伝えること**です！

「いつ頃出版された本を読みたいか」、「何時代のことについて調べたいか」、「作家や著者は誰か」などなど、細かいところまで決めてから質問に行くと、スムーズに相談を進めることができます。

調べ物をするには、自分が「何を知りたいのか」「どこまで判っているのか」をはっきりさせることが必要です。「手がかり」がなければ、いくら職員さんでもお手上げです。最初に、できるかぎり自分で「手がかり」を用意して持って行くことが調べ物の第一歩。職員さんに「調べてもらう」のではなく、職員さんに「自分で調べるための手助けをしてもらう」のがレファレンスです。



ちなみに、僕は今回レファレンスを利用して、K-aiserは表記の仕方で検索結果が大きく変わる（「カルチャー」と「カルチュア」、「流行神」と「はやり神」など、漢字・平仮名・片仮名の表記の違いによって、見つかるものも見つからなくなる）ということを教えていただきました。

また、大学ウェブサイトの[図書館・情報センター]から[最新・利用案内]のページに飛ぶと、



[[JapanKnowledge]『新編日本古典文学全集』全作品公開]というコーナーがあり、ここで、日本の古典文学作品の全文を電子ブックとして読めるということも分かりました（ただしJapanKnowledgeは、ニコニコ動画の生放送のように、入場者数の制限があるので、運が悪いとアクセスしても弾き出される可能性があります）。

この他にも、論文の探し方など、本だけではなく色々な情報の探し方について教えてもらえます。

是非利用してみたいか教えてくださいか？

◇こんな使い方もできます

この他にも、図書館のHPにはオンラインデータベースのリンク集があり、GeNiiや雑誌記事索引集成データベース等を利用することができます。一つの方法で目的の資料が探せなかったら、複数の方法を試してみましょう。



大学教育最前線

— 教員の努力! 学生のまなざし! (7) —

教員からの授業努力

「博物館実習Ⅳ」

落合 知子 (文学部准教授)

博物館学教育から学ぶこと ～人として大切な事を伝える～



「博物館実習Ⅳ」は
どのような科目ですか。

國學院大學の博物館実習はⅠ～Ⅳまでの4科目ですが、実習Ⅳは博物館学課程の総仕上げとも言える科目で、技術を習得する実技の授業です。その内容は、学芸員の心得から始まり、資料の取扱い(掛軸・卷子本・刀剣・箱・甲冑等)、資料の二次資料化と修復(写真撮影・採拓・装演技術・和装綴じ等)で、1年間で主に歴史系博物館の学芸員に必要な基本的技術を身に付けます。

國學院大學の博物館学課程について教えてください。

本校の博物館学講座は昭和33年に樋口清之博士によって開講されました。私立大学では3番目とその歴史は古く、その後、加藤有次博士に引き継がれ、現在の青木豊教授によって、我が国で最も充実した博物館学課程が確立されました。これまでおよそ7000余人の有資格者を輩出し、各地の博物館で1000人以上の院友が学芸員の仕事に就きました。

さらに大学院での博物館学コースが「平成21年度文部科学省高度博物館学教育プログラム」に採択され、予想以上の成果を上げました。国内のみならず博物館学の研究を目的とする留学生も増えており、海外における知名度も高くなっています。

学芸員資格は国家資格で、その取得方法は幾つかありますが、大学在学中に取得するのが一番易しい取得方法です。大学生活をより充実させるためにも学芸員資格をはじめ、その他の資格の取得をお勧めします。

しかし、この技術も単に資料の取扱いが出来ることを指すのではなく、その資料に関しての十分な知識を持つことが大前提となります。例えば掛軸の取扱いは、まず掛軸の構造を知ることから始まり、掛軸を構成する部分、それに使用される正麩糊・和紙・裂地等の装演技術に及ぶ知識が要求されます。先人たちの知恵を学び、日本の伝統技術の素晴らしさを理解することができます。また、刀の取扱いでは、銃砲刀剣類所持等取締法、手入れ方法、展示法等幅広く学びます。刀剣類の歴史的背景や武士の作法を学ぶことにより、展示に供する場合、刀は柄が左でなければならないことを理解します。博物館でも刀の柄を右に掛ける展示を目にすることがありますが、これは多面的な知識を持たずに学芸員の仕事をしているからです。したがって、実習Ⅳでは理論と技術両面からの授業を実践しています。

装演の実習では、糊の炊き方、和紙の切り方、刷毛の洗い方から、古文書等の脆弱な紙資料の修理技術を学び、紙資料の簡単な修理ができるまでを目標とします。



装演技術を学ぶ

授業で工夫している点は 何ですか。

実習Ⅳのクラスの定員は15名の少人数制です。資料の取扱いは手先が器用な学生も、不得手な学生もありますが、少人数制なので一人一人に対して丁寧に指導することを心掛けています。資料の取扱いは勿論のこと、それ以上に厳しく指導するのが礼儀作法です。学芸員は研究者であると同時に教育者でもあり、来館者への対応も必要とされるからです。資料の取扱いの実習は真剣に取り組むことが重要なので学生も緊張しますが、一人でも遅れて入室する学生がいると、その時点で受講生の集中力は途切れてしまいます。したがって遅刻した学生は全員に対して深く黙礼してからの入室が必要ですし、謙虚な姿勢をも身に付けてもらいます。特に厳しく指導するのが言葉遣いです。一部の女子学生の乱暴な言葉遣いに驚くことがしばしばありますが、「言葉は心を表す」ものであることを1年間しっかりと指導します。学芸員を目指す学生であれば、礼儀正しく、言葉遣いも美しくなければなりません。しばらくすると一人一人が一礼をして退室するようになります。

礼節に厳しくする一方で、資料の取り扱いや採拓、資料の修復などの実習に対してはできる限り褒めるこ

とを心掛けて授業を進めます。否定する教育ではなく、褒める教育の実践です。博物館学課程の中でもこの実習Ⅳならではの指導方法といえますので、実習Ⅳはイコール人格形成の授業と考えています。

また、実習Ⅳは異空間という表現が当て嵌まるかもしれません。実物資料の取り扱いは、失敗は許されませんから最大の注意と集中力、心を無にして出来る限り丁寧に扱うことが要求されます。現実と乖離したこの授業は、卒業論文や就職活動に追われる4年生にとっては雑念を払う楽しい授業となるようです。1年間の実習を通じて学生同士も心が通うようになり、コミュニケーション能力の向上は勿論のこと、確実に信頼関係が育まれます。

さらに実習Ⅳにおける教員側の目的は、学芸員及び博物館学研究者として、資質の高い人材の発掘です。学芸員への就職が厳しい社会状況において、学芸員を志望する学生には大学院への進学を積極的に進めます。日本の博物館をよくするには、学芸員と博物館学教員の資質の向上が肝要であるからです。地道に優秀な学芸員と博物館学教員を育てることが、日本の博物館を少しずつ変えていく手だてと考えます。そのようなことから、わたくし自身も一人一人に対して真摯に向き合い、人として尊ばれる教員を志しての指導を実践しています。

学芸員資格を取得して 学芸員になれますか?

学部卒業と同時に正規の学芸員として採用されることは皆無ではありませんが、かなりハードルが高くなっているのが現状です。その理由は学芸員資格は学士の国家資格であるものの、高学歴社会であるが故か大学院修士修了が採用条件となっているのが一般的です。しかし、國學院大學大学院の博物館学コースに進学し、博士課程前期を修了すれば可能性はかなり広がります。平成23年度の修士卒業生は三重県立博物館(専任)・板橋区立郷土博物館(専任)・日比谷図書文化館(専任)・東京国立博物館(嘱託)・文化庁(嘱託)・神奈川県職員(嘱託)・渋川市職員(専任)・木島平村職員(嘱託)・株スペース(正規)等の博物館及び関連企業等に就職しました。さらに博士課程後期を修了すれば大学の博物館学教員への道も夢ではありません。平成23年度までの修了生は東京農工大学助教(専任)・國學院大學助手(専任)・國學院大學栃木短期大学(非常勤)・法政大学(非常勤)・日白大学大学院(非常勤)・東京農業大学(非常勤)・杉野服飾大学(非常勤)等で教鞭を執っています。このような就職状況からも理解できるように、学芸員を目指す学生は大学院に進学して、國學院大學大学院博物館学コースが実践している「高度博物館学教育」の中で、伝統ある國學院の博物館学を学んでいただきたい。国内外の調査・海外インターンシップ・大英博物館研究調査等の助成もあり、充実した大学院生活を送れるものと確信しています。

博物館学研究室の刊行物は ありますか。

『院友学芸員』と『國學院大學博物館学紀要』があります。『院友学芸員』の内容は、国立博物館、県立博物館、市町村立博物館、神社博物館、企業博物館、博物館学大学教員、博物館関連企業に就職し、学芸員資格を有する院友による執筆で構成されています。このような定期刊行物を出せる程、我が国の博物館界で院友学芸員が活躍しています。

受講学生からのコメント

●文学部史学科4年 相澤瑞季



資料の取扱い (四方掛・樽結び)

私が博物館学課程を受講した理由は、私自身が歴史に影響を受け史学科に入学した一人として、現代まで受け継がれてきた資料を保存し、多くの人に伝え、また後世に受け継いでゆくという職業に携わることには大きな魅力を感じていたからです。また、学芸員はあらゆる年代の方々を教科書では知り得ない発見に導き、歴史を通して現代社会を見る空間を提供することが出来、大変なやりがいを伴うとも感じていました。

博物館実習Ⅳは、実際に刀や掛軸、卷子本に触れ、展示方法や手入れの方法を学ぶことが出来る大変貴重な内容の授業です。資料の専門的な取り扱いには勿論ですが、四方掛等の紐結びの取り扱いの際には、風呂敷による瓶の包み方など本当に普通の生活に活かせる知識も教えて頂きましたし、怪しかった蝶結びの結び方もここで改めて確認することが出来ました。落合先生は必ず一人ひとりの作業を確認しに作業台をまわってくださり、的確なアドバイスをくださるので、授業内容にまったくついていけないという事態は発生しません。私は大学院に進み、博物館学をより専門的に学ぶことを決めましたが、その決定には博物館実習Ⅳの存在が大きかったと言えます。いくら三年生まで机上で学んだといえども、いざ実習で苦手意識を感じるようなら、到底学芸員には成り得ないという不安があったからです。落合先生は、理解しやすい用語での解説や、全員が理解できる余裕ある作業時間

配分などを心掛けてくださり、実習にはとても前向きな気持ちで取り組むことが出来ました。

後輩の皆さんには、もしも自身の進路に「将来博物館界で働きたい」という選択肢があれば、まだそれが確実でなくても、積極的にその旨を博物館学の先生方に伝えて欲しいと思います。先生は、親身になって相談に乗ってくださいますし、バックアップもしてください。まだあまりに漠然としていて、その段階にも至っていないと考えるならば、まずは講義に真面目に出席し、履修すべき単位を取りこぼさないよう注意を払い、そうして足場を固めることから始めてみてください。

●神道文化学部神道文化学科4年 成田圭佐



資料の取扱い(刀剣)

博物館学課程を受講したきっかけは、ちょっとした興味と特別な技能や資格が得られるかもしれないからという簡単な理由でした。しかし、実際に講義に出席すると博物館学という学問のおもしろさを知ることになりました。博物館には普段、私達が観覧客として館内を巡る際には気にも留めなかったところに、驚くほど多くの創意工夫が施されているのです。博物館学を学び、モノを見るという視点が高度に変化した私にはもうこの先、純粹に博物館の展示品のみを見て楽しむということは難しく、多角的観点からモノを観る力を養ったことにより、知的好奇心が刺激されるのを実感しています。

実習Ⅳは4年間の総まとめの講義であります。資料を保存・記録・鑑賞するためにはどのようにして扱えばよいのか、より実践的な実習によってそれらのことを学びます。講義は資料とそれを扱う道具などの歴史

や各部の名称、現状の博物館では実際にどのように扱われているかなどを学ぶ座学と、実際に資料の取り扱いとそれに使用する糊や墨などを作る実習に分かれています。先生の指導を仰ぎながら、学生同士で協力しつつ実習を進めていきます。資料の取り扱いは不慣れもあって手順などを忘れがちですが、いつでも先生がフォローをしながら指導にあたってくださいるので、どの学生も必要な技術を学ぶことができます。

博物館資料の取り扱いは時に思いがけない方法や材料を使うことがあります。しかしそれは、すべて理にかなった科学的根拠と、長い歴史の中で培われた知恵の産物であることを理解しました。このような先人達の工夫に触れることのできる実習内容に、私は強い関心と驚きを覚えました。

博物館学はまだまだ発展の要素のある比較的若い学問であります。しかし、日本には保存されていない資料や正しく保管のなされていない資料が沢山あります。同時にこの国では貴重な資料が土に汚れず、悠久の時を経て現在まで受け継がれてきました。それは先人達の努力の結果であり、この実習Ⅳで学ぶことのできる技術はその仕事を引き継ぎ、次世代に歴史を繋ぐための技術なのです。先人達から受け継いだものを変えず次の世代に引き継ぐ、それはたとえるなら自らが歴史の1ページとなる、とても意味のある、そしてなんともロマンにあふれた事なのではないかと私は思います。

卒業生からのコメント

●博物館実習Ⅳを受講して 東京農工大学科学博物館助教 高木愛子

私は学芸員資格を他大学で取得し、博士課程から國學院大學大学院の博物館学研究室に所属した際、後学のために博物館実習Ⅳを受講させていただきました。現在は、東京農工大学科学博物館に勤務し、学芸員課程の科目も担当しています。

二つの大学で博物館実習の科目を受講し、現在指導する立場となって、改めて國學院大學の博物館実習のレベルの高さを実感しています。資料整理や展示企画など、学芸員としての思考をトレーニングす



講義風景 (博物館実習)

る実習を行う大学が多い中、國學院大學の博物館実習Ⅳでは、具体的な技術面に重きを置いた実習が実施されており非常に驚きました。刀剣や掛軸など普段あまり目する機会が無くなった資料の成り立ちと取扱いの作法、さらに写真や拓本の取り方、装潢など特殊な記録・修復技術に至るまで、毎回興奮気味に受講していたのを覚えています。少人数体制で落合先生には分かるまで丁寧に教えていただき、実際の資料を用いての実習に夢中になり、授業時間を過ぎても残っていることもしばしばでした。これらの作法や技術は、学芸員に必要な基礎的要素ですが、実際に実技を学べる機会は少なく、一通りを習うことのできる博物館実習Ⅳは、非常に重要な科目だと思います。

更に大学院の博物館学コースでは、博物館の歴史や資料論、展示論などのより専門的な講義の他、国内外の調査や海外インターンシップなどのより実践的なトレーニングを積み、大学院修了の時期には、学芸員として高いレベルの知識・技術を習得することができます。また博物館学コースには、様々な学部学科から学生が集まり、博物館学について各々の視点か



研究室の刊行物

ら研究するところが、大きな特徴だと思います。研究室での研究発表や勉強会を通して、一つのテーマについて多様な見解が議論され、博物館学の奥深さを知ると共に視野を大きく広げることができました。現在の仕事もまさに、それまで学芸員にこだわり、教職は全く考えていなかった私にとって、博物館学コースで学んだからこそ開かれた新たな道だったと言えます。

学芸員としての就職は、残念ながら非常に狭き門です。職務内容にこだわり過ぎず、自分に今できる経験の一つずつ蓄積しながら、採用のチャンスを待つ必要があります。学芸員を目指す皆さんも、ぜひ大学院に進学し必要な知識と技術を習得すると共に、自身の視野を広げ様々な可能性にチャレンジしてください。



学芸業務 (科学博物館の展示)

教育開発推進機構彙報

(平成24年7月1日～12月31日)

※職名等は当時のもの

会議

○運営委員会

第2回：9月19日 第3回：12月12日

○國學院大學FD推進委員会

第4回：7月25日 第5回：10月3日
第6回：11月21日 第7回：12月19日

○教育開発センター委員会

第4回：7月25日 第5回：10月3日
第6回：11月21日 第7回：12月19日

○共通教育センター委員会

第4回：7月25日 第5回：10月31日
第6回：11月21日 第7回：12月19日

○学修支援センター委員会

第5回：7月25日 第6回：10月10日
第7回：11月21日 第8回：12月12日

○全体連絡会 7月5日

FD活動、教育支援

7月7日 平成24年度第2回新任教員研修
(兼平成24年度第1回FDワークショップ)

- ①「國學院大學校史」
講師・齋藤智朗氏
(本学研究開発推進機構校史・学術資産研究センター准教授)

- ②「教育評価論演習Ⅰ—学習達成評価—」
講師・沖裕貴氏
(立命館大学教育開発推進機構教授)

12月15日 平成24年度第2回FDワークショップ

①「シラバスと授業の到達目標の書き方」
講師・柴崎和夫氏
(本学教務部長、教育開発推進機構副機構長)

- ②「良い授業のための留意点(非言語、視聴覚情報の応用) —表現力とアイコンタクト、無言面接—」
講師・林泰子氏
(立命館大学教育開発推進機構講師)

行事

○講演会

7月18日 平成24年度FD講演会
「発達障害がある学生の理解と対応」
講師・渡辺慶一郎氏(東京大学学生相談ネットワーク本部・講師)

○研修会等

8月2日 前期SA(スチューデント・アシスタント)最終報告会
10月6日 後期SA研修
10月17日 ノートテイク研修会
12月1日 後期SA(スチューデント・アシスタント)中間報告会

出張等

8月27～28日 第12回山形大学FD合宿セミナー「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」参加(加藤機構長・阿部助手、於山形大学蔵王山寮)

8月27～29日 日本私立大学連盟平成24年度マネジメントサイクル(PDCAサイクル)修得研修参加(新井助教、於アルカディア市ヶ谷)

8月27～29日 日本リメディアル教育学会第8回全国大会参加(小濱助教・鈴木助教、於立命館大学衣笠キャンパス)

8月30～31日 第2回高等教育開発フォーラム参加(加藤機構長・中山准教授・新井助教、於帝京大学八王子キャンパス)

11月23～24日 大学教育学会2012年度課題研究会参加(中山准教授、於くにびきメッセ)

12月6日 全国私立大学FD連携フォーラム会員校ミーティング・懇談会参加(小濱助教、於立命館大学東京キャンパス)

刊行物

7月25日 教育開発推進機構NEWSLETER『教育開発ニュース』第6号



新任職員紹介



小林 香 (教学事務部教務課主任)

昨年10月にたまプラーザキャンパスの図書館から異動して参りました。わずかばかりですが、教務課、図書館職員としての勤務経験を活かして、学生の皆さんの学修のお手伝いをさせていただくことになりました。来室された皆さんに相談して良かったと思っていただけるよう、皆さんの気持ちに寄り添いながら最善の方策が取れるよう勉強して参りたいと思っています。よろしくお願いたします。



高橋 和枝 (教学事務部教務課書記)

昨年10月から着任いたしました。その日から3か月、学修支援センター相談室で、多くの学生の皆さんとお話する機会がありました。学生の皆さんが自分らしさを大切にしながら実り多い学生生活を送れるようお手伝いしたいと思いつつ、実は、お目にかかった学生のみなさんから、私自身が大切なことを学ばせてもらっていると実感しています。これからも、どうぞ気軽に足を運んでみてください。ノックは無用です。

SA (スチューデント・アシスタント) 募集

教育開発推進機構では、大人数授業での教育効果の向上を目指して、SA(スチューデント・アシスタント)制度を実施しています。主な作業は教材の印刷や配布、出席カードの整理等です。学内で、空いている時間でできますので、必要なのは「やってみよう!」という前向きな姿勢だけです。SAとして活動し、大学生活をより充実させてみませんか?

[対象] 2年生～4年生

[募集期間] 前期: 4月履修登録期間

※スチューデント・アシスタントは成績評価に関わる業務は行いません。

ノートテイク募集

教育開発推進機構では、聴覚障害のある学生のためにノートテイク(講義内容の要約筆記)をしてくれる意欲ある学生を募集しています。研修を行いますので、初心者でも大丈夫です。

[対象] 2年生以上

[勤務時間] 1コマ90分(曜日不定)

採用期間・給与等については募集時に学内に掲示します。

啖 啖 同時

— 編集後記 —

第7号をお届けいたします。今回は学生向けの記事を中心に企画しました。南開大学(中国)セメスター留学の紹介では、学生の皆さんに「外つ國々の長きを採」るためにも、留学制度を利用して、世界に羽ばたいて欲しいという願いを込めました。続けて、履修登録時に必要な「前期履修登録上の注意点」をまとめました。履修登録は難しいものですが、4月は1年間の学修計画を設計する大事な時期です。参考にして、有意義な学生生活の「はじめの一歩」を踏み出す一助としてください。「七転び八起き」は、それぞれが抱えていた困難を無事に乗り越え、卒業していった先輩方に寄稿していただきました。「図書館へのインタビュー」はSAの協力により図書館利用の基礎を紹介したものです。図書館は知の宝庫です。大いに活用してください。博物館学課程の落合准教授には、「博物館実習」の授業の魅力をご紹介いただきました。今号も多くの方のご協力を得て刊行することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。(鈴木)

教育開発推進機構 NEWSLETTER『教育開発ニュース!』第7号 平成25年1月31日発行

発行人 加藤季夫 編集人 小濱 歩・鈴木崇義

発行所 國學院大學教育開発推進機構 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28